

摘 錄

○中村左衛門太郎、奥丹後地震報告の一部

(學術研

究報告 第五)

但馬城崎地震との關係 大正十四年の城崎地震と本地震とは何等か深き關係を有するもの、如く思はる。その兩地震を結び付くべき事件としては大體次の如き現象あり。

一、城崎地震に於て、久美濱灣北岸の地陥没し、佐渡谷川に約二十町歩の田地及び桑畑海底に没し去りしが今回の地震にて再び附近陥没せり、この陥没區域は久美濱灣北岸及佐渡谷川下流に沿ひて走り、その東端に近く平田附近に温泉の湧出を見たり、俵野及び上野附近の浸水區域、木津の温泉地帯、淺茂湖及び灘湖畔の低下地域、掛津附近の山崩等皆日本海岸に平行せる同一直線上にあり。

二、城崎地震の場合に於て網野及び泰山は、震源より比較的離れ居たるに拘らず、振動烈しく殊に網野にては淺茂川及び小濱にて家屋の倒潰ありたり、又激震區域は兩地震に於て一部分(久美濱附近)相重複せり。

三、木津の温泉は今回同様城崎地震にも温度及び湧出量を増したり。

四、同一海岸にて城崎地震後にも今回と同様潮位の變動を見たりといふ。

右の外兩地震が相似たる季節に起りたる事も注意すべき事な

り、右の内第二の事實は城崎地震の頃に於て既に泰山谷附近が可なり不安定なる情態にありしを示すものと思はる、もし城崎地震が少しく強かりしか、又は少しく遅く起りしならむにはその刺激によつて今回の地震は同時に起りしやも測り難し、もし然らむには、地震は更に烈しかりしならむ、幸にして泰山系斷層に沿ふ不安定の度が當時未だ著しからざりし故、單に地震を少しく強めたるに止まりしならむ。(F)

○田山利三郎、丹後但馬地方の地形發達史結論

(學術研究報告 第六冊)

一、全地域は基準面まで没蝕しつくされ、地貌は單調となり僅に所々に殘丘を留めるに過ぎなくなつた。この時代は瑞穂沈降時代後である。

二、急激なる隆起時代、前時代の靜より急に動に移り隆起に伴つて斷層作用、火山作用が猛烈に働く、平凡なる前時代の地貌は複雑となり、多數の地塊に分離する、又斷層線上には新しい河を生じ前時代と異つた河系を形成するに至る。更に火山岩の噴出は地形を複雑化する。豊岡盆地の口に於ける玄武岩、村岡盆地の口に於ける石英粗面岩の如きはこの時代の現出であらうこの時代に於て現地形のアウトラインは完成されたと思ふ。この時代の隆起量は三〇〇米位のものであらう勿論局部的には大にて七〇〇米を越した所もあつたらう妙見山地塊の如く。

三、高位段丘形成時代、沈降又は靜止の長い時期と急激な

る隆起の時期とが週期的に起つた時代である。この結果として數段の段丘を地表に印し、谷底には平衡曲線の異常な來らしめた、この時代にあつては前時代に猛烈であつた斷層作用及び火山作用はその力を弱めた、併し尙その餘勢があつた、週期的隆起の結果は段丘となつた、三〇〇米段丘形成時代、二〇〇米段丘形成時代、一〇〇米段丘形成時代、この時代はプライストシオン期で、隆起の總量は三〇〇米位であつたらう。四、下位段丘形成時代、1、沈降時代 2、隆起時代この時海岸に三〇米段丘を形成する、沈降時代(現代)であらう。(F)

新著紹介

○本邦各火山文獻集

(明治大正年間) 原田準平編

古今書院パンフレット 七四頁 定價九拾錢

日本の火山に關し本邦發行の主な雜誌報告等に掲載された文獻を火山別に排列した書目である。地學專政家や科學を重んずる旅行者に執つては甚だ便利有益なものである。本文獻集には單行本をあげず、又學藝志林や地學協會報告や東亞自然及民俗協會報告中のものなどを採録してゐない。又卷末には外國で刊行されたものを一頁だけあげてゐるが到底満足なものではない。紹介者は本地球誌上に何れ本文獻集を補足するべくこれ等の省略された文獻を集めたものか掲載する心組である。(N)

○地理教材研究第十二輯

日黑書店發行
定價一圓五十錢

本集には佐々木清治氏の門前町の研究が光つてゐる。宗教都市の成立を論じ鳥居前、寺院門前、御陵門前の三種類を説明し、比叡山の坂本は往古の發達した形骸を残すに過ぎないと論じ、門前町の特殊形相として假設店舗の多いことや、やがて茶屋の永久的の料理屋酒舖になることをのべ豊川稻荷門前町の實例をあげてゐる、最後に門前市場の話も面白い、この一篇の外に、久留米市、米子市、名古屋市の商業、石油の地理、臺灣、新パレスタイン、アルメンの構造、和歌山縣の飛地、日本の瑞西檜原村、雪の長岡市、十年後の秋田市以上大小十二篇、十二輯だから十二篇といふ因縁でもないがまづかうした各篇と第一輯以後十二輯までの總目次がついてゐる。編輯帷子學士の努力を感謝する。(藤田)

○經濟地理の教養

田中蕪著
古今書院發行

神戸高商の講師である田中蕪氏が神戸の自由學園の普通科四年五年と高等科一二年生に引續き講演されたセミナー式の演習の總決算として出來た本である。女學校の生徒でも指導すればこれ位の本はかけるといふよい參考になる。第一章地理學の發達から河川文明、内海文明、海洋文明、内陸文明世界の現勢といつた風に世界地理の歴史的考察が若い女學生の頭の中で考へられて、而して書き上げられたのであるから讀んで之より學ぶといふ參考書ではないが、之によつていかに世界觀が整頓されたかといふ道行を知るには十分であると信する一部は田中氏のかうした努力が二百五十頁(一圓六十